

OZORA NEWS

環境 | 水遊び・プール | 2022.11.30

つめた〜い・あたたか〜い

プールに入る前のシャワーに「う〜つめたい!」と言って背中を伸ばす日もあれば、「きょうのプールあたたかいね」と太陽で水温が温かくなっていることを身体で感じる日もあります。噴水に頭を当て水の気持ちよさを全身で感じる姿も! Aくんは、「こっこのプールは、冷たい」とプールによって違う水温を感じます。「みずのなかのほうがあたたかい」と感じたBちゃんの姿も見られます。温度計がなくても自分達の身体で感じています。

浮き輪であそぶと・・・

楽しいね!



ドーナツの浮き輪に入って仰向けになり足を伸ばし目を瞑りリラックスするAくん、サメ型に腹ばいでつかまりバタ足をさせ、サメの気分になるBくん、ボート型に乗り友だちに引っ張ってもらうことが楽しいCちゃん、バランスを取りながら浮き輪に乗り、水の中で身体が浮く感覚を楽しんでいます!



〜水の感触〜

南国にある幼稚園なので、プールは1年中行っています。園庭に設置する簡易プールですが、泳ぐことを目的とするのではなく、「水と親しむ」が大きな目的です。幼児期は、水や砂を何よりも、手に触れ足を埋め、流れに足をつけて感触を楽しみます。水のさまざまな働きや動きに目を向けていきます。プールに関しては、基本深さ20〜50cmを保っています。しゃがんで腰を水につけながら、カップや、ボトル、浮き輪などでじっくり遊びます。動物のフィギアがあったときは、小さな浮き輪に動物を集め、動物たちになって会話を楽しむ姿もありました。水に浸かりながらという光景が非常に新鮮でした。また、水着に着替えることに抵抗を感じる子どもも時にはいます。気持ちが緊張している場合は、無理にプールに入れることはせず時を待ちます。



「ぼくがさきに見つけた」「わたしがさきにとった」と言い、一つしかない浮き輪をめくり取り合いになったり、どうしても譲れないDくん、「かわって」と何度もDくんに声をかけるEちゃんの姿も見られます。保育者が関わりながら、「まってね」「じゅんばんね」等、言葉で相手に思いを伝えたり、それぞれの交渉が始まります。遊びに使う物を大切に扱ったり、友だちと共有し一緒に遊ぶ楽しさをじています。

色水のジュース屋さん

絵の具の片付けをしているうちにジュース屋さんが始まりました。

保育者「レモンジュースください」

Aちゃん「はい、100えんです」

Bくん「なにがいいですか？」

保育者「オレンジジュースお願いします」

黄色の色水を差し出すAちゃん、注文を聞いてオレンジの色水を持つてるBくん、ジュースの色を味に見立てジュース屋さんごっこを楽しんでいます。Cちゃんは、無色の水に色をつけるのが楽しくて色水を作ることに夢中になり、Dくんは、ボトルに色水を入れて並べジュース屋さんを始めようとします。Eちゃんは、「これ、きれいでしょ」と見せてきてます。色を混ぜて新たな色を作り、濃さや色の違いを楽しんでいます。

先日こんなことがありました。「はいりたくない」を数日連呼している男児。午後プールを片付けるために水抜きをスタッフが行っていたところ、プールの排水口から出る水の流れが面白く、見入っていたのですが、水がほぼ無くなり、プールの高さを潰してしまおうとした瞬間、その中に入り寝転んで転げ回っていました。「水と遊ぶ」とはまさにこのことだと実感させられた事例でした。

